

万博前売り券 消えぬ不安 赤字の危機

# 販売ペース急落

2025年大阪・関西万博の前売り入場券の販売ペースが急落しています。

8～9月の販売枚数は週10万～20万台が続いていましたが、10月初旬には週約109万へと急増。その後、週約6万～7万へと激減し、直近では週1万台へと落ち込んでいます。

原因として考えられるのは、関西の大企業などが大量購入していた「超早割1日券」(大人6000円)の販売が10月6日に終了したこと。合計販売枚数は約730万枚(6日現在)。9割強が「超早割1日券」です。前売り目標1400万枚のうち経済界

## 大企業分終了で

万博入場チケットの販売状況

	超早割1日券	合計販売枚数	週販売枚数
9月4日	463万8901	476万7751	15万5826
11日	481万8722	499万2017	22万4266
18日	493万7299	514万0187	14万8170
25日	509万5868	530万9921	16万9734
10月2日	579万3889	605万1278	74万1357
9日	675万5602	713万9092	108万7814
16日	675万5602	720万0113	6万1021
23日	675万5602	727万1710	7万1597
30日	675万5602	728万4033	1万2323
11月6日	675万5602	730万2204	1万8171

に割り当てていた700万枚を販売枚数が超えたあたりから販売のペースが急激に落ち込みました。

### 負担は国民に転嫁

今後毎週7万枚(1日1万枚)のペースで売れたとしても開会まで残り約150日で売れるのは150万枚にすぎず、目標には500万枚以上足りません。計画通り売れず赤字になれば、負担が住民・国民に転嫁される危険があります。

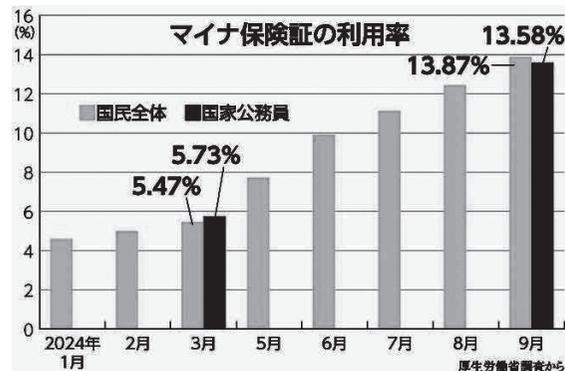
# マイナ証押し付けるな

## 保険証廃止いまだ混乱

自民党・公明党政権が12月2日に健康保険証の新規発行を停止し、マイナンバーカードと保険証を一体にする「マイナ保険証」の一体化を強行しようとしています。

マイナ保険証をめぐる問題は山積し、現行保険証の廃止を掲げた与党は、総選挙で過半数割れ。数の力でのごり押しは許されません。

マイナ保険証の利用率は9月で13.87%。政府が217億円も血税を計上し、医療機関や薬局に「支援金」をばらまき、利用促進に駆り立てましたが、効



果は極めて限定的でした。

職責上マイナ保険証を推進する立場の国家公務員の利用率が13.58%と全国平均よりも低いままです。制度を所管する総務省で19.42%、厚生労働省でも19.68%。デジタル庁を含む内閣府本府支部は16.06%です。

## 日本共産党

### 医療現場トラブル多発 現行の存続が回避策

全国保険医団体連合会が10月発表したアンケートでは今年5月以降、約7割の医療機関でマイナ保険証、オンライン資格確認に関するトラブルが発生。それでも政府は保険

証廃止に固執。その結果、資格確認方法が9種類も存在することになり医療現場の大混乱は必至です。最大のトラブル回避策は、現行保険証の存続です。

しんぶん 赤旗

日刊 (毎日配達されます) 月3,497円

日曜版 (毎週配達されます) 月990円

お申し込みはお近くの党事務所か 党員までお願いします

近畿民報

2024年11月No2(第624号) 発行/日本共産党国会議員団 近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビース102号 Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115 Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を発表しました。

# 国民の声が動かす時代に

## 自民1強崩れる

総選挙で自民・公明の与党は、衆院で過半数割れという歴史的な大敗を喫しました。2012年発足の安倍晋三政権以来の「自民1強」体制は崩れ、野党が一致して反対すれば予算案や法律案などを通せなくなりました。

## 要求実現の道開く

自公の反対で妨げられてきた国民要求の実現も道が開けます。

これまで自公は、違憲の集団的自衛権行使の容認や「安保3文書」を国民や国会にも諮らず一方的に閣議決定し、安保法制などの悪法を「数の力」で強行採決してきました。しかし、自公だけの協議で決めた結果を国会にそのまま押し付け



衆議院本会議場

る強権政治はもはや通用しなくなります。

▽裏金問題の全容解明と企業・団体献金を全面禁止する法改正▽選択的夫婦別姓制度の実現▽紙の健康保険証の新規発行停止方針の凍結▽大学学費の値上げ阻止▽軍事費に5年間で43兆円をつぎ込むための大軍拡増税のストップ、などは喫緊の重要課題です。

たたかいを広げ、自公の巻き返しを許さず、国民の願いを実現しましょう。

## 首相指名 決選投票 立民・野田氏に投票 日本共産党

11日に行われた衆院の首相指名選挙は、30年ぶりに決選投票になり、日本共産党は立憲民主党の野田佳彦代表に投票しました。

これについて田村智子委員長は、▽野田代表から決選投票での協力要請を受け、総選挙で示された民意に

応えて裏金問題の真相究明と企業・団体献金の全面禁止を行うことで一致した▽健康保険証の廃止凍結など緊急の要求を進めることでも前向きな協議になったとして、野田代表に投票すると表明しました（12日、党国会議員団総会あいさつ）。



田村委員長

## 産経「改憲論議『厳冬期』」

「タカ派ジャーナリズム」で知られる産経新聞。総選挙で衆院の改憲勢力が改憲発議に必要な3分の2

を割ったことを受け、改憲論議は「冬の時代」に入ったと嘆きました。さらに自民党が衆院憲法審査会の会長のポストを立憲民主党に譲った事態を伝える記事で「改憲論議は一気に『厳冬期』に突入した」（9日付け）と嘆いています。

同記事は、維新や国民が引き続き憲法審での議論に応じる構えを示していたことから、「会長ポストを譲らなくても憲法審で改憲議論を深めることは可能だったとの見方が大勢」と無念さをあらわにしています。



## 「赤旗」の調査報道に「敬意」

### 日刊スポーツ「政界地獄耳」

「裏金追及」の立役者・「しんぶん赤旗」が引き続き、メディアの注目を集めています。

日刊スポーツ7日付けコラム「政界地獄耳」は冒頭で「『赤旗』日曜版11月10日号が政治とカネでまたかつ飛ばした」と紹介。自民党が裏金非公認議員に2000万円を支給したという報道に石破首相が「選挙の公認・非公認とは無関係」と反論したことについて、「赤旗」は公認・非公認を含め候補者がいない支部には2000万円を支給していなかったことを暴露しました。

「地獄耳」は首相の反論は大ウソと指摘。「赤旗の調査報道に敬意を表す」と締めくくっています。